第２号様式(第３関係)

視察等個別部分報告書	作成者氏名	清水 仁恵
１　視察（研修・視察研修）の実施名称（テーマ）		
平成 30 年度　調布市議会 文教委員会 行政視察		
２　実施結果に対する所感，意見等 （質疑・意見交換した内容，今後の市政に生かすべき点等）		

福岡県八女市　「映画制作と観光振興の取り組みについて」

八女市では映画制作と観光振興の取組について視察を行った。今回は、八女市を中心に撮影された映画「野球部員、演劇の舞台に立つ」の制作に関わり、地域の特性を生かす経験をされたお話しを伺った。文教委員会においては、今回の視察をより有意義なものとするため、去る８月に本映画の試写会を行った。実際に映画本編を委員全員が観覧して視察に臨んだことは、映画制作やロケ地選定の過程がより鮮明となり、且つ臨場感をもって話を伺うことができたことは何よりの成果と言える。

調布市においても「映画のまち調布」と謳い、フィルムコミッション事業も実施しているところであるが、実際のところ映画やドラマでは調布のまちの一部分を切り取った形で使われる機会が多い様に感じている。市役所庁舎や市議会議場も過去に撮影に使用された実績はあるものの架空の舞台であり、調布のまち全体が撮影の舞台になったことはないと記憶している。しかしながら、映画制作にはとにかくお金と時間がかかるとプロデューサーがコメントされた様に、調布市のまち全体を撮影の舞台として映画が制作されることは難しいと思われる。ただ、まちやそのまちの住人を活用した映画制作は、新たな映画が生み出されると同時に、その他の効果も得られることが話を伺う中で理解できた。例えば映画に出演するエキストラに関して相場では一日一人につき 10,000 円経費が必要となるそうであるが、市民にボランティアとして出演を依頼すれば、その経費は他に活用することができる。市民エキストラのボランティアを募った当初は、応募が少なくボランティアも集まらなかったそうだが、行政・市民が一体となって取り組んだ結果、多くのボランティ

アが集まったそうである。ある高校生ボランティアは、映画制作の過程を目の当たりにすることで、将来は真剣に仕事に取り組みたいと感想を残しており、子どもの成長を支援することにつながる取組とも言える。また、八女の豊かな土壌がもたらすお茶・いちご・菊などの特産農産物を映画に活用することにより、JA とのタイアップが実現したそうだ。これらは映画を観る人に映画の物語のみならず八女というまちに対する印象も深く与えられるだろう。今後は映画を広めていくことに注力していきたいとのお話しであったが、映画を広めていくことで八女のまちや特産物も宣伝されると思われる。しかしながら、映画を通してどの様に観光振興につなげるかは未だ課題であるとのことであった。調布市においても市民のあらゆる協力を得ながら「映画のまち調布」が推進されることが望まれる。今年度は市内映画関連事業者と協働して映画のまち調布シネマフェスティバル２０１９が実施されており、市民による映画の人気投票が先日締め切られた模様であるが、今回の視察を通して「映画のまち調布」のさらなる推進を図るためには、市民が映画を肌で感じられる取組や調布の地域特性を活かした取組に発展させていかなければならないと感じた。

佐賀県武雄市　「ＩＣＴを活用した教育の取り組みについて」

武雄市では ICT を活用を活用した教育の取組について視察を行った。2010 年 5 月に ipad が発売された間もない 12 月、全国に先駆け武雄市では学校への ipad 整備が開始、先ず山内東小学校に 40 台導入されたそうである。約 8 年が経過しようとしている現在では、児童・生徒が 1 人 1 台タブレット PC を使用できる環境が全ての小中学校に整備されている。資料として頂いた「武雄市 ICT を活用した教育パンフレット」の冒頭には「未来あるすべての子供たちに充実した学びの環境を作り、ワンランク上の子育て・教育環境の整備を進めている。最高の教育こそ地方創生。中でも『ICT 教育の推進』については、情報化社会への対応力育成に加え子供たちの可能

性を伸ばし、21 世紀を生き抜く力を育むツールとして非常に有効なもの。」との市長メッセージが掲げられていた。このことからも都市部よりも地方都市の方が少子化や人口減少を深刻に捉えていることが教育施策に大きく反映されている様に感じる。調布市においては、現在教員用のタブレット PC がようやく配置されるところであり、その取組の格差には愕然とする。東京の都市部だからといって胡坐をかいていてはならない。未来を担う子ども達の教育に関しては特にそう感じる。

武雄市では ICT 教育機器の整備に加え、先生方の ICT 教育機器活用能力も評価されており、日経 BP 社による全国の小学校 1748 校中学校 1782 校における情報化進展度を比較する「全国市区町村公立学校情報化ランキング 2016」において小学校全国 1 位、中学校全国 2 位に輝き、また、東洋大学現代社会総合研究所より客観的視点で効果検証や課題抽出がされ、一定の評価を得ているそうだ。

具体的取組について特に「スマイル学習」と呼ばれる「武雄式反転授業」の取組が私の印象に残っている。「スマイル学習」とは授業前日にタブレット PC を家庭に持ち帰り、動画を見たり、設問に答えるなどの予習を行い翌日の授業に臨むという学習方法である。予習をすることにより、子ども達はより意欲的、主体的に授業に臨むことができ、教員は子ども達の予習内容をオンライン上で知る事ができるため子どもの実態を粒さに把握することができる。授業当日は、予習をしたことで子ども間での話し合い、学び合い、教え合いなどの協働学習につながり、それらは問題解決能力の育成に繋がっているとのことであった。ICT を活用することにより単に機器を操作する能力や、知識の定着、学力を向上させる効果だけでなく、それらに付随しコミュニケーション能力、情報を活用する能力を始めとした様々な力が育成され、生きる力に繋がっていく。とても画期的な取組ではなかろうか。調布市においても ICT を活用した教育の取組を加速化させる必要がある。財源の問題はあるが、廃校となった小学校に植えられていたという高齢市民の思い入れのある樹木

を保全するために先日白紙撤回された調布駅南口駅前広場地下駐輪場建設のために必要とされていた費用を、１人１台のタブレットPC整備に活用するなど、未来を担う子ども達の教育施策に還元する方法も夢ではなさそうである。

福岡県久留米市　「男女平等推進センター事業について」

久留米市では男女平等推進センター事業について男女平等推進センター「え―るピア久留米」に伺い視察を行った。え―るピア久留米は平成13年に約50億円を費やし建設された男女平等推進センターと生涯学習推進センターが複合化されたもので、地上4階建の大変立派な公共施設であった。男女平等推進センターの日曜日を除く平日の開館時間は9:30～21:30とのことであり、夜間の相談にも迅速に対応可能な体制が整えられていると感じた。正職員4名、嘱託職員10名、任期付職員1名という人員体制も申し分ないと言える。平成15年に全市で男女平等を進めていくことを目的とした男女平等推進条例を制定した久留米市の姿勢がセンターの運営体制にも色濃く表れている。条例には基本理念が定められており①男女の人権の尊重②社会における制度や慣行についての見直し③あらゆる教育における男女平等の推進④政策・方針決定過程への男女の平等な参画⑤家庭生活と他の活動との両立⑥男女の健康な生活と性と生殖に関する権利の尊重⑦国際社会との協調、以上6項目が掲げられている。調布市においては、久留米市の制定する男女平等や男女共同参画などを条例化したものは無いが、調布市男女共同参画推進プランを定め施策が推進され取組が実施されている。担当者の話を伺う中で、直近では「女性のまちづくり参画講座」を新規事業として取り組み地域人材の育成へ注力している、或いは性暴力相談の強化がされており、相談員による警察や病院等関係機関への同行支援が行われるなど、調布市では取り組まれていない先を行く取組があることに感心した。まずまず私は調布市の男女共同参画施策においてDVに関する取組に注力してほしいと予てより考えている。久留米市

第２号様式(第３関係)

では「ジャーナル」と言うDV啓発物を作成し、銀行や病院等へ配架していること、センター相談事業も土曜日を除く毎日実施、本曜日は夜20時まで対応しており、DV絡みの相談が非常に多いというお話しを伺った。相談室を拝見させて頂いたが、その設えもDV被害者に寄り添ったものとなっていた。調布市においてはDVに関する取組は平成22年に「調布市配偶者暴力防止及び被害者支援基本計画」が5か年の計画期間をもって策定されたものの、平成23年度に第4次男女共同参画プランが見直された際に、DV施策はその中に包含されてしまい、計画期間終了した後、新たな計画は作られることなく現在に至っている。今回の視察を通して、今後調布市におけるDV施策が後退することのない様、改めて注視していきたいと強く感じた。
3　その他（今後の課題・調査研究すべきテーマ等）
全て文中に記載。

第２号様式（第３関係）

視察等個別部分報告書	作成者氏名	橘　正俊

１　視察（研修・視察研修）の実施名称（テーマ）

八女市・「映画制作と観光振興の取り組み」について

２　実施結果に対する所感，意見等
（質疑・意見交換した内容，今後の市政に生かすべき点等）

実話をもとにして制作された地域映画・「野球部員、演劇の舞台に立つ！」のロケ地となった八女市を視察させて頂きました。

視察では、鈴木プロデューサーを始め、今回の映画に携わった皆様の苦労話やエピソードは、実際現地に来てみないと聞けない事ばかりでした。文教委員会では視察に当たり、事前に映画の鑑賞会を行い視察に臨みました。視察先では時間的に映画を観ることは出来ませんでしたので、事前の鑑賞会は大変有意義な視察に繋がりました。

今回の映画制作プロジェクト立ち上げまでの経緯・応援する会と支援する会の役割・観光振興の取り組み・課題や問題点・効果・反響等について教えて頂きました。今後本市が映画に携わっていく中で学ぶ事が多々ありました。昔から大きな映画制作所があった事から「映画のまち調布」と呼んでいますが、更に特徴を持った「映画のまち」にしていくヒントが、今回の地域映画制作にあったように思います。

内容の素晴らしさはもとより、作品の中には八女市の伝統工芸や地場産業等を盛り沢山に取り入れてあります。それが観る人を更に引き付けているのではとも感じた次第です。大変良い視察でした。

３　その他（今後の課題・調査研究すべきテーマ等）

・映画産業と地域観光による経済効果の研究
・調布市を舞台とした映画の制作
・地域映画制作による行政・民間企業・市民の繋がりや経済効果以上の事も含め、他調査研究が必要であると思います。

第２号様式（第３関係）

視察等個別部分報告書	作成者氏名	橘　正俊

１　視察（研修・視察研修）の実施名称（テーマ）
武雄市・「ＩＣＴを活用した教育の取り組み」について

２　実施結果に対する所感，意見等 （質疑・意見交換した内容，今後の市政に生かすべき点等）
市内の全小中学生にタブレットを導入した佐賀県武雄市を視察させて頂きました。 授業におけるＩＣＴ活用が進まない理由の６割以上が「器機が不足しているから」と言われています。そのような中、全生徒に器機を導入して取り組んでいる自治体を視察させて頂ける事は大変貴重でありました。教育分野へのＩＣＴ機器導入の経緯やその活用、コスト・導入効果等を丁寧に教えて頂き、今後本市においてもＩＣＴ環境を整備していくうえで大変参考となる有意義な内容でありました。 説明の中では取り組み事例、①スマイル学習（武雄式反転学習）②オンライン英会話（生きた英語の習得）③プログラミング教育④食育推進事業⑤花まるタイムへの活用⑥事業改善に向けたＰＤＣＡサイクルの確立、を紹介頂き、ＩＣＴ導入の取り組みを具体的に知る事が出来ました。 そのような取り組みの中、課題も多々あることも今回の視察で勉強させて頂きました。学校教育が求める機能、教育側として「何を整備すべきか」それに対し事業者が「どのような製品を提供したら良いのか」、それを常にテーマに整備していく必要性を感じた視察でありました。

３　その他（今後の課題・調査研究すべきテーマ等）
器機の整備にかかるコストやＩＣＴ器機を扱える人材の確保の検討は課題であり、調査すべきと思います。

第２号様式（第３関係）

視察等個別部分報告書	作成者氏名	橘　正俊

１　視察（研修・視察研修）の実施名称（テーマ）

久留米市・「男女平等推進センター事業」について

２　実施結果に対する所感，意見等
（質疑・意見交換した内容，今後の市政に生かすべき点等）

久留米市の男女平等推進センターでは、主にＤＶ防止対策について視察をさせて頂きました。

本市においてもＤＶ被害が年々増加する傾向があり、それは他自治体においても共通の課題であると認識しています。久留米市におきましても、ＤＶ防止対策委員会の設置の背景には配偶者による暴力相談件数の増加がありました。

久留米市では増加の課題を整理したうえで、優先的に取り組むべき重点課題を決めていました。具体的施策として、・市民に対する男女共同参画講座やＤＶ予防研修の実施・教育現場等における予防教育の実施・新規事業としてパープルキャンペーンの実施・医療関係者との研修強化など、多くの取り組みを教えて頂き、大変参考になりました。

今回の視察では実際の相談コーナーも見させて頂きました。そこにはＤＶ被害者を守るため、相談室から直ぐ外に出られるようになっていたり、隣にある職員の部屋から様子が窺えたりと機能的な工夫がされていました。相談室ひとつを取っても相談者に細かい配慮をして取り組んでいる事は大変勉強になりました。今回の視察を本市のＤＶ防止対策の参考にしていきたいと思います。

３　その他（今後の課題・調査研究すべきテーマ等）

・ＤＶ被害者の潜在化を防止するための早期発見の研究

第２号様式(第３関係)

視察等個別部分報告書	作成者氏名	伊藤　　学

１　視察（研修・視察研修）の実施名称（テーマ）

福岡県八女市

「映画制作と観光振興の取り組みについて」

２　実施結果に対する所感，意見等

（質疑・意見交換した内容，今後の市政に生かすべき点等）

実話を映画化したいそんな思いと、その舞台となる地域特性を生かした場所と人を協力したい、それが一致して映画製作に取り掛かることができたとのこと。

この話は１０年ほど前から脚本化されていました。児童生徒にどうしたら教育的視点から作品ができるか、地域の特産や自然の美しさをスクリーンに映し出せるか、地域の人々が映画製作に関わることで町が一体化するか、いろいろな視点で八女市の協力が重要であったとのこと。

そんな中から特産物はＪＡに全面協力をお願いし、エキストラは町の人々に協力をお願いし、なんと言っても自然と風景の最高のロケーション、これを売り出すチャンスと考え市として全面的に協力したということです。

勿論平成２９年度から次年度にかけての八女市として予算を計上し、物心両面での協力体制で臨んだもので真剣さを感じたところであります。

３　その他（今後の課題・調査研究すべきテーマ等）

調布市としても映画の町としてどう調布を知ってもらえるか、調布に行ってみたい、調布の良さを伝えることをテーマに撮影に協力していくかを考えさせられました。

第２号様式(第３関係)

視察等個別部分報告書	作成者氏名	伊藤　　学

１　視察（研修・視察研修）の実施名称（テーマ）

佐賀県武雄市

「ＩＣＴを活用した教育の取り組みについて」

２　実施結果に対する所感，意見等

（質疑・意見交換した内容，今後の市政に生かすべき点等）

教育改革、教育支援、子育て支援は市政の一丁目一番地と位置づけをし、ワンランク上の子育て、教育環境を進めてきたとのこと。

その政策の中でもＩＣＴ教育推進は情報社会への対応力の育成に加え、子供たちのいろんな可能性を伸ばし、２１世紀を生き抜く力を育むツールとして非常に有効であると捉えたそうでありました。

実際に教育現場ではタブレットが全児童生徒に貸し出され、教師もそれに準じた指導がされているということでありました。授業の予習や復習にも大変有効なツールとして活用されていて、課題としては一般的な書物から問題を引用することによって著作権の侵害に抵触する危険性があることが指摘されていました。

武雄市ではそうしたトラブルを無くすためにもＩＣＴ教育専門の指導員を配置して教員の相談指導に当たっていることも大変重要な視点であることが理解できました。

３　その他（今後の課題・調査研究すべきテーマ等）

第２号様式(第３関係)

視察等個別部分報告書	作成者氏名	伊藤　　学

１　視察（研修・視察研修）の実施名称（テーマ）

福岡県久留米市
「男女平等推進センター事業について」
～ＤＶ被害者支援事業について～

２　実施結果に対する所感，意見等
（質疑・意見交換した内容，今後の市政に生かすべき点等）

男女平等推進センターの機能の柱は「自立」「情報」「交流」を基本にセンター運営をされています。

「自立」においては研修事業と自立支援事業と相談事業に視点をおき、「情報」においては情報事業と調査研究事業そして広報啓発事業をおこない、「交流」では利用者に交流の機会を提供し、自主的活動やネットワークづくり促進の支援を実施しています。

中でも行政手続き等については個人の秘密を最大に守るための工夫がされています。例えば申請窓口に行って何度も同じような質問と答えをしなくてすむシステムの構築がなされています。

一枚のペーパーに必要事項を書き込むことによって全ての窓口と職員が最大限に慎重な対応を図ることで被害者の精神的な不安を除いて差し上げることからもこの施設に来られた方に寄り添った活動がされていると感じました。

３　その他（今後の課題・調査研究すべきテーマ等）

第２号様式(第３関係)

視察等個別部分報告書	作成者氏名	井上耕志

１　視察（研修・視察研修）の実施名称（テーマ）

10月９日　福岡県八女市

「映画制作と観光振興の取り組みについて」

10月10日　佐賀県武雄市

「ＩＣＴを活用した教育の取り組みについて」

10月11日　福岡県久留米市

「男女平等推進センター事業について　～ＤＶ被害者支援事業について～」

２　実施結果に対する所感，意見等

（質疑・意見交換した内容，今後の市政に生かすべき点等）

福岡県八女市「映画制作と観光振興の取り組みについて」

八女市では「野球部員、演劇の舞台に立つ！」という映画製作を行うにあたり、まちぐるみで力を結集し、観光振興にも取り組んだ事例を研修させていただいた。

この視察を行うにあたっては、伊藤委員のご尽力のもと、委員会として８月に映画視聴会が開催されるなど、事前の準備についても怠りないものとなった。

実際の映画製作にあたっては製作費を１億円とし、市民有志で「支援する会」を立ち上げ、うち3000万円を目標に資金調達することと、エキストラ・ボランティア3000人を募ることを求められたという。とはいえ、ボランティアを集めるにあたってはなかなか集まらない状況と合わせて、資金に関しても実際には2200～2300万円にとどまる結果となったという。まちぐるみで映画製作を実現していくためには、このあたりの課題をどのように克服していくのかが大きなテーマとなるというご苦労がひしひしと伝わってくるものであった。

市を挙げてまちぐるみで映画製作を行うために行政がどのような動きをしていかなければならないかが注目すべき部分となるわけであるが、八女市の特産物であるお茶・菊・いちごの三大名物を映画内で際立たせることにより、JAの協力を得ることに成功することができたという。

また、市職員の協力体制はもちろんのこと、県人会をフル活用することで前売り券の購入が促進されたそうである。

教育分野では市内の高校において全面的な協力を得られることができたため、生徒だけではなくその保護者も含めた方々への働きかけにも成功したそうである。

行政・産業・教育分野をつなぐさまざまなネットワークがフル回転することによって、全国では20館で上映するに至り、二次上映でも20校の高校で上映会が開催された。また、今後は全国500校の小中学校でも上映してもらえるよう取り組みを進めていくそうである。

本市は「映画のまち調布」の取り組みが市内にある映画製作会社と連携しながら進められ、映画祭の開催にはじまり、フィルムコミッションや高校生の映画製作コンクールの実施など各種施策に力を入れているところである。市としてこのような活動を地道に行うことと同時に、調布を中心とした映画製作を行うような機運が高まった際には、製作会社だけでなく各分野の力を結集できるような取り組みが行えるよう、今回の視察の成果を活かしていきたい。

佐賀県武雄市「ＩＣＴを活用した教育の取り組みについて」

武雄市ではiPadが日本で発売された2010年5月直後の12月に全国の小中学校に先駆け市内山内東小学校に40台導入したことを皮切りにＩＣＴを活用した教育がスタートすることとなる。その後2013年に武雄市ＩＣＴ教育推進協議会が設置され、この事例が検証され同協議会からの「全小中学校全学年に配布することが望ましい」との答申を受け、2015年4月には全小中学校へデバイスの配布が終了したとのことであった。あわせて周辺環境の整備も同時に行われ2014年度には無線ＬＡＮネットワークも全教室に配備されることとなる。

この学習環境整備により、2014年5月から全小学3年生以上の算数、4年生以上の理科で武雄式反転授業である「スマイル学習」(school movies・innovate・live・education classroom)【先生(学校)の動画によって、教室がより革新する授業(学校と家庭がシームレスにつながる

学習)】が実施された。また、2015年4月からは順次市立全中学校の数学・理科で、続いて2015年10月からは全小学校で国語の授業でもスマイル学習が導入された。

東洋大学現代社会総合研究所ＩＣＴ教育研究プロジェクトが2015年6月にまとめた第一次検証報告書によると、算数・国語の成績を相対的に比較すると前者は向上、後者は低下したとの結果が得られたという。もちろん、学習方法の変更や改善など取り組むべき課題はあろうが、効果が表れやすい教科とそうではない教科があることや、改善の余地が十分にあるということが裏付けられたのではないかと見て取ることができる。

また、導入に対するコストに関しても無視できない指標である。武雄市では全小中学校への機器導入におよそ2億2000万円を投入したということであるが、あわせて周辺環境整備への導入コストやランニングコストについても検証を行っていく必要がある。さらに、児童や生徒に高評価を得た一方で教員の負担が増加したという課題も指摘されているところである。こうした先進的な取組の光と影の部分に関しても慎重に吟味しながら、本市におけるＩＣＴ教育の導入に向けてはさまざまな検討を行い、進めていく必要がある。

福岡県久留米市「男女平等推進センター事業について　～ＤＶ被害者支援事業について～」

1988年「女性問題解決のための久留米市行動計画第一期実施計画」に「総合女性センター」の設置の検討が明記されてからさまざまな議論を経て2001年5月に同センターは開館した。施設形態は複合施設で同センターと生涯学習センター、人権啓発センター、消費生活センターが一体となり、【えーるピア久留米】という愛称で運営が行われている。

特にこの施設における相談室では、万が一被害者が追跡された場合のために入口とは別に出口が確保されるなど、相談者が安心して相談することができる環境が確保されているのが印象的であった。施設を建設する際にそのような細かな配慮が行き届いた設計となっており、このよう

な気配りが相談者にとっては重要なファクターとなっているのではないかと捉えさせていただいた。

施設の運営に目を転じてみると「平成26年度久留米市男女平等に関する市民意識調査」から見るＤＶ被害の実態から、パートナーから暴力を受けたことがある人のうち約半数が「相談しなかった・できなかった」と回答し、この５年間でパートナーから暴力を受けた経験がある数は４人に１人とのことであった。こうした結果から平成27年に策定された「第２次久留米市ＤＶ対策基本計画」では

・安全確保の最優先
・被害者の立場に立った切れ目のない支援
・関係機関との連携の強化
・地域実情に応じた支援の展開　等

を基本的な考え方として位置づけ、ＤＶ被害者支援のためのワンストップサービスが進められることとなる。

同センターへの年間相談件数3973件(平成29年)のうち主訴がＤＶ・ＤＶ絡み・性暴力の三項目で2945件、全体で70%を超える状況となっていることからも、引き続きＤＶ被害に対する的確な対応を推進していくことが求められる。あわせて、平成29年には人権啓発教育の一環でデートＤＶ防止啓発講座も市立中学校８校(20クラス)で実施されたとのことであった。こうした比較的若い段階から啓発を行っていくことにより、将来的なＤＶ防止への抑止にもつながっていくのではないかと考える。本市においても状況の精査を行うとともに、学校教育へ啓発活動を含めたプログラムを導入することも含め検討を加えていきたい。

３　その他（今後の課題・調査研究すべきテーマ等）

本文内に記載

第２号様式(第３関係)

視察等個別部分報告書	作成者氏名	大野　祐司

1　視察（研修・視察研修）の実施名称（テーマ）
文教委員会行政視察 「映画制作と観光振興の取り組み」について 福岡県八女市
2　実施結果に対する所感，意見等 （質疑・意見交換した内容，今後の市政に生かすべき点等）
「野球部員、演劇の舞台に立つ！」の映画製作では、市内の観光名所、市内の物産品を多く取り入れており、宣伝効果が大きい。 （特に、八女茶（お茶）、あまおう（いちご）、電照菊など） 製作費を集めることは大変であり、協賛金として集めるために、行政との役割を分け、「支援する会」と「応援する会」を作り活動したことは大きい。また、エキストラを市内の高校生にお願いして、コストを抑えることもよく考えられている。 ８月に、たづくり映像シアターで事前試写会をおこなったこともあり、八女市のロケ地状況などがよく理解できた。 調布市でも、映画の街を掲げているので、もっとロケ地としてアピールし、市内観光の活性化を図るべきと感じた。 （ロケツーリズムなどを利用してはどうか？） そして、何よりも、映画に対する情熱を持った人たちが必要と感じた。
3　その他（今後の課題・調査研究すべきテーマ等）

第２号様式(第３関係)

視察等個別部分報告書	作成者氏名	大野　祐司

１　視察（研修・視察研修）の実施名称（テーマ）
文教委員会行政視察 「ＩＣＴを活用した教育の取り組み」について 佐賀県武雄市
２　実施結果に対する所感，意見等 （質疑・意見交換した内容，今後の市政に生かすべき点等）
武雄市では、全小中学生全員（約 4000 人）に、一人一台のタブレットを配付しているが、生徒数が少ないこともあり可能と思う。 宿題（予習）をタブレットにダウンロードし、家で実施。次の登校日にサーバーにアップロードすることで、先生が実施状況を把握できる方法は、授業の組み立てが容易になり、生徒も授業により意欲的に臨むことができる。 タブレット導入に伴い教員のＩＣＴ教育も大変であるが、校務支援システムを導入、ＩＣＴ支援員を民間委託するなどで効率的に対応している。 調布市においては、平成 29～31 年度で、市内小中学校 28 校に電子黒板の導入、平成 31 年度に校務支援システムの導入など、武雄市に比べ 7 年ほど遅れていると思われるが、情報化社会への対応は必須と考える。 武雄市でのＩＣＴ教育にかかわるコストであるが、全小中学校にタブレットを配置するときなどは、約 2 億円強のコストがかかり、運用していくには、ＩＣＴ支援員委託費やセキュリティーコストなど年間 5 千万円ほどかかっている。調布市に同様なＩＣＴ教育を導入すれば、武雄市の 2 倍額くらいはかかると思われるが、早急に対応すべきと考える。
３　その他（今後の課題・調査研究すべきテーマ等）

第２号様式(第３関係)

視察等個別部分報告書	作成者氏名	大野　祐司

1　視察（研修・視察研修）の実施名称（テーマ）
文教委員会行政視察 「男女平等推進センター事業について」 ～ＤＶ被害者支援事業について～ 福岡県久留米市
2　実施結果に対する所感，意見等 （質疑・意見交換した内容，今後の市政に生かすべき点等）
ＤＶ被害者支援では、被害者の住所等基本情報が漏洩しないようにする取り組みは、当然であるが、すごく重要である。 （久留米市のワンストップ化ＤＶ被害者相談共通シートは、担当職員個人の資質や裁量に左右されることなく、組織として統一した対応が取れ、良くできていて、調布市においても非常に参考になると思った。） ＤＶ被害相談者との面談では、差し迫った危険がある場合、シェルター機能を有する相談場所で面談をおこなう配慮はよくできている。 医療関係者からのＤＶ発見啓発活動の重要性も感じた。 デートＤＶについては、人権啓発教育の一環としてデートＤＶの問題を正しく理解し、男女平等の意識作りを図ることを目的に、市内の中学生を対象としたデートＤＶ防止啓発講座は有効と思う。 併せて、男女平等推進の重要性も感じた。 調布市での取り組み内容を確認し、常にブラッシュアップしていくよう、推進していきたい。
3　その他（今後の課題・調査研究すべきテーマ等）

第２号様式(第３関係)

視察等個別部分報告書	作成者氏名	二宮陽子

１　視察（研修・視察研修）の実施名称（テーマ）

10/9(火)福岡県八女市
「映画制作と観光振興の取り組みについて」
10/10(水)佐賀県武雄市
「ＩＣＴを活用した教育の取り組みについて」
10/11(木)福岡県久留米市
「男女平等推進センター事業について～ＤＶ被害者支援事業について～」

２　実施結果に対する所感，意見等
（質疑・意見交換した内容，今後の市政に生かすべき点等）

10/9(火)福岡県八女市「映画制作と観光振興の取り組みについて」

福岡県八女市を舞台に、八女市在住の元高校教師が書いたノンフィクションが原作の映画「野球部員、演劇の舞台に立つ」について、地域が一体となって取り組まれた映画製作について視察させて頂いた。八女市の豊かな自然や特産品、特徴的なロケーションを活かして作品に織り交ぜ、地域の活性化も図り地元エキストラを起用しながら、主人公の高校生の悩みや葛藤、成長とともに、周りの大人が寄り添い支える姿が丁寧に描かれている作品となっている。視察の前に映画を鑑賞する機会をいただいていたが、タイトルからは、敵対する関係が次第に互いを理解するという展開の青春群像劇というイメージがあった。しかし鑑賞後、高校生の成長とともにまちをあげて映画製作をしてきたことが画面からも伝わり、今回の視察により、ロケ地を視察させて頂き背景などを含め、製作過程や経過を知ることで地域が一体となった事業であることを実感した。担当者からの説明で印象に残ったのは、舞台で演劇が上演されるラストシーンに、観客役として学生エキストラ３千人が参加した時のエピソードだ。俳優の真剣な演技やスタッフのつくる現場の空気を感じ、段階的に観客もシーンをつくる空間の一部であることを感じていき最後には一体感のあるシーンをみんなで創っていくことが出来たということであった。エキストラは教育所管との連携もあったことで、高校生が映画製作の現場を経験するきっかけとなっている。映画鑑賞時に、ラストシーンの画面から感じる緊張感を思い出し、現場にいた人たちが一体感をもって作品創りに臨んだことが想像できて感動を覚えた。私は演劇という表現の持つ力を信じているので、若者がこの作品にエキストラとして関わることで、現

場の緊張感やメリハリを目の当たりにして、学生たちが心を動かされていったと聞き、貴重な経験となったことを想像し嬉しく思った。八女の若者にとっても、一生心に残るなかなか得られない大変貴重な経験をしたのではないだろうか。改めて自分の暮らす地元の美しい風景を客観的に見直すことや地域に関心を持つきっかけも創出したのではないかと思う。

10 年の月日をかけて構想をあたため理解を得ながら協賛金を集め、製作費 1 億円をかけて製作されたこの映画をつくるにあたり、製作担当の方の中には農協から映画製作の世界へと転身し人生をかけて取り組まれたということを伺い、そのエネルギーが周囲を動かし、人と人とが響きあう作品へと影響を与えたひとつであると感じた。タイミング的にもキャスティングの好影響も含め、芸術文化の持つ力が多くの地元の方々に影響を与えた作品であると実感した。八女市との違いは様々あるにせよ、調布でも宣言のある市として、文化芸術がこころを動く切っ掛けとなって実感できる場として映画製作の実現が出来たらと思う視察となった。

10/10(水)佐賀県武雄市「ＩＣＴを活用した教育の取り組みについて」

武雄市では、小学校 11 校、中学校 5 校の全児童生徒に 1 人 1 台のタブレット端末を活用した ICT 教育を導入している。環境整備としてインターネット接続校内無線 LAN を各校に整備、ICT 支援員を全 16 校に各 1 人配置されている。具体的な事例の紹介では、家庭学習の充実、民間企業と連携したオンライン英会話、プログラミング教育、民間企業と連携した食育推進事業、民間学習塾と連携した花まるタイムへの活用、事業改善に向けた PDCA サイクルの確立などをご紹介いただいた。また、教員に対し、ICT スキルアップセミナーという研修を毎年複数回実施している。そして教員の方へは、ICT はツールであることを伝え、「生きる力のテクノロジー」として教育大綱にも企業と連携して今後も推進していくということが記載されている。ほかにも、pepper の導入についても、どのように活用しているのかについての詳細な説明はなかったので、学校教育への導入についての取り組み状況を伺いたかった。また、資料によると、ICT 教育の整備にかかる費用は総額でおおよそ３～４億円となっており、一般財源の他、国の補助金や交付金の活用を検討しているということだが、定期的な更新が必須である為、武雄市の教育

全体の予算配分についても詳しく伺いたいところであった。

ICT教育推進の際の注意事項として、低学年から１人１台タブレットを持つことにより、電磁波やブルーライトにおける身体への影響が懸念されることだ。インターネットを使いこなすことは、これからの時代にとって必要なスキルであることから、その力をつけておくことは悪いことではないが、成長過程にある子どもたちの健康を守ることにも充分配慮していくことが必要であると考える。また、国語での読解力やコミュニケーション能力等を育くむ教育の充実が同時に図られることで、目指すべき力の定着がさらに期待できると考える。そしてインターネットを駆使する教育と平行して、メディアリテラシー教育も充実しなくてはならない。今の子どもたちにとって、便利さとともに友達との関係性の構築に必要不可欠なツールであるからこそ、簡単なことでいじめなどにつながる危険性を十分に理解させ、その利用においてルール化することが大変重要となる。子どもが事件や事故に巻き込まれないよう子ども自身が自分と相手を守るためには、メディアリテラシー教育は必須である。また、調べ学習の大切さも指摘されていることから、自分の力で欲しい情報をどのように獲得していくのかを学ぶことは、生きる力をつけるという意味においても一生の財産となる学習の初めの一歩であると考える。調布市の学校図書館司書の方は自主的に勉強会をされるなど、子どもたち自身の学ぶ力を育むための学校図書館の充実に配慮いただいているが、調べ学習は子どもたちにつけさせたい力であると言っている。ICT教育だけはなく、同時につけさせるべき力や教育についても伺いたいことがあった。他にも、アンケートからは保護者からの心配の声への対応について、2011年から続けてきたICT教育はどんな効果があったのかについてももっと具体的に知りたいことがあったが、質疑時間にも限りがあった。

10/11(木)福岡県久留米市

「男女平等推進センター事業について～ＤＶ被害者支援事業について～」

先駆的な取り組みをしている久留米市男女平等推進センターにおいて、特に先駆的な事業であるDV被害者支援事業を中心に伺った。「えーるピア久留米」は、男女平等推進センター、生涯学習センター、人権啓発センター、消費生活センターの複合施設である。男女平等推進センターの３つの機能とし

て、①自立②情報③交流があり、主な事業例として①女性の政策参画講座、女性のまちづくり参画講座、研修、離婚に関する講座、セクシャルハラスメント防止講座など②男女平等を知ってもらうための子育てサロンの実施、男女平等推進センタージャーナルを年3回発行。③40団体が実行委員となり、イベントを実施している等がある。限られた財源の中でスクラップ＆ビルドを実践し、何が必要か日々職員と考え取り組んでいるとのことである。相談事業での相談内容は、夫婦問題が圧倒的に多く、DV が多いということであった。2017 年の性暴力相談では、2 年前から 2.8 倍、急性期相談では 2.2 倍で相談件数は増加しており、相談につながりにくいという現状もあるが、ワンストップ相談も行っている。啓発カードは女性トイレの個室に置くなどの工夫がされていた。啓発、周知、関係機関との連携が必要であるということであった。2001 年に男女平等推進センターがオープンし、2004 年には「ワンストップ化のための DV 被害者相談共通シート」を導入。2 年後には DV 被害者対応マニュアルが作成され、2012 年・2016 年全職員対象の DV 研修を実施している。制度が出来ただけでは不十分で、その後の顔の見える関係作りや取り組みが必要で、研修や連携会議を重ねてきた。職員 1 人 1 人が人権感覚を身に着けて相談を受けることが重要である。ワンストップ化のための共通シートは、DV 被害者が行政サービスを求める場合、DV に関する相談の証明として活用・事務処理の簡素化にも役立っている。マニュアルやワンストップにより、手続きが職員の資質や裁量に左右されず、組織としての対応が維持され、住所情報保護システム等により、関係部署窓口において、安全への配慮が定着してきていている。

今回の視察では、このセンターの先進的な DV 被害者支援事業を中心にご説明いただいた。2017 年度の相談件数は、3,973 件で、DV は 24.5%、DV 絡み 43.9%、性暴力 5.7%であった。保育士等子どもに関わる職務関係者や、学校教育でのデート DV 啓発講座の実施、職員の情報管理能力の向上、一貫した対応など、課題から見えてきたことを積み重ね、今やっと適切にできているという館長の言葉が印象的であった。先進事例は何年もかけてつくられていくということを端的に表していると感じた。相談室は、相談中に危険な状況になっても相談者が安全に逃げることが出来るような構造となっており、時に命にかかわる深刻な状況に陥る危険性がある DV 被害者側に立ち、命を

守るという姿勢を感じた。さらに庁内の連携も図られており、職員の研修や戸籍や通知の郵送などの手違いが起こらないような連携が大変充実していた。

他にも、セーフコミュニティ DV 防止対策について説明を受けた。セーフコミュニティとは、WHO（世界保健機構）セーフコミュニティ協働センターが推進する「けがや事故などは偶然の結果ではなく、予防することができる」という理念に基づき、予防に重点を置き、地域社会全体で進める安全安心なまちづくりの取り組みやそれを行う地域のことである。それに取り組むことで、けがや事故が減る・地域みんなで一緒に取り組むことが可能・国際認証なので安心安全のまち久留米のイメージアップが図れる等の効果があるとしている。セーフコミュニティ推進協議会は 2011 年に市長を会長に、57 団体 63 名が委員となっており、8 つの取り組み分野のうち、DV 防止対策委員会では、2009 年市内の 47.4％の女性がパートナーから暴力を受けた経験や、白書の統計では 3 割が配偶者からの暴力の経験があることや、相談件数の増加を背景にしている。2013 年国際認証を取得し、2016 年に施策の見直しを図り、予防に重点を置くことや、医療機関への研修の強化や連携も重視している。市民に対する男女共同参画講座や DV 予防研修を実施し、5 年間で 295 回の講座、のべ 14,227 人が受講し、9 割近くが参考になったと回答している。これらにより、DV を女性への人権問題だと思う人の割合が増加するなどの効果があがっている。今後は発生防止、早期発見を目標としている。

また、久留米市では、1988 年「久留米女性憲章」、2002 年「久留米市男女平等を進める条例」が制定され、2010 年「DV のないまちづくり宣言」が全国に先駆けて宣言された。条例のあらましのパンフレットには「個（わたし）が輝くまち久留米をめざして」というタイトルがついており印象的だ。九州地方では、「九州男児」などという言葉が存在するように、女は 3 歩下がって歩くなどという地域であると初めて聞いた若い時に、「日本は広く、自分のまだまだ知らない世界があり、東京生まれでほっとした」と思った記憶がある。そのような印象がある中で、九州でなぜ先進事業となっていったのかという疑問があったことと、「男女平等」を掲げるセンターを視察できることは大変期待の高まるものであった。しかも本市と違い、「男女共同参画推進」ではなく、「男女平等推進」を掲げている。男女が共に自分らしく活躍

できる社会を目指していくことは大変重要な視点である。しかしそもそも男女は平等であるはずだ。同じ人間であるのに、性別で判断し差別していいものはひとつもない。しかし国際社会から見た日本は、ジェンダーギャップ指数の国際ランキングからみても大変遅れている国であることから、平等の精神が出発点となって施策へと繋がっている久留米市は、男女共同参画推進社会という概念から一歩も二歩も進んでいると感じた。

久留米市はなぜ条例ができたのか。当市はなぜ条例をつくるということが難しいと言われ続けて、どうして条例が出来ないのか。その答えのひとつとして、市民団体の数も関係しているのではないだろうか。1年に1回実施されるフォーラムでは、40を超える市民団体が参加していると伺った。センター設置経緯でも、活動熱心な方が多かったと聞いている。

また、第3次男女共同参画行動計画の策定にあたり実施された「久留米市男女平等に関する市民意識調査」では、質問項目例が身近な事柄で、男女平等が自分の立場から考えることが出来ることから、わかりやすく問題をとらえ、理解につながる内容となっている。この意識調査に参加することで、より自分事として男女平等への理解につながっていくのではないかと感じた。それに対し、「男女共同参画社会」は、堅苦しく難しいと感じる言葉で、理解につなげることが難しいと感じてきたが、様々な努力が必要であると感じた。本市としても、様々な工夫と実践や取り組みに一層の努力が必要であると感じた。刺激と勇気と宿題をもらう、大変有意義な視察となった。

3　その他（今後の課題・調査研究すべきテーマ等）

八女市について

私は演劇部の外部指導員を10年続けてきたが、終始生徒に伝えてきたのは、感謝の気持ちと相手を感じるこころです。地域に点在する資源をつなげて有効に活用し、子どもたちに、特徴を持った経験をさせることが出来ないかと常に考えている。文化芸術のまち宣言もある中、若者を中心とした政策へと落とし込むことが出来る可能性が調布には十分にあることを感じている。映画のまちであり、劇場を持つまちであるにも関わらずまだまだ活かしきれていない。今後すすめていくべき課題である。ワークショップやフィールドワークなど、まずは調布の資源を探すことから始めるといいのではないかと考える。子どもたちに、地域で大切にされ、自身も感謝されるような関

係性を、達成感とともに実感する生きた教育が文化芸術を通して実践できると考える。いつも思うことだが、視察後に、振り返りと市政につなげる議論がしたいと思っている。

武雄市について

情報化社会の進展とともに教育分野へのICT導入の流れは、今後さらに進んでいくものと考えられる。その一方で、読解力やコミュニケーション能力を育む教育の充実も欠かせないものである。そんな中、学校図書館の果たす役割は非常に大きい。本市には現在、すばらしい取り組みをしている学校司書の方がたくさんいらっしゃるが、良い人材が労働環境の良い他の自治体に流出している現状がある。こうした状況に危機感を抱き処遇改善を求め続けているが、現在の市の対応では、現状に歯止めがかからない。力のある学校司書の方が市外へと流失するこの現状は、子どもや学校にとって良い教育の機会を失うという大きな損失である。このことも委員会としても議論していきたいと感じている。

久留米市について

DVのみならず、男女平等推進センター全体の取り組みも知ることで、本市の男女共同参画社会の考え方や在り方を含め、参考にしていくべきと考える。わが市の基本計画では、男女共同参画の施策が31番目一番最後であるため、全ての施策にかかることであるにも関わらず、取り組み姿勢が大変弱いと感じている。男女共同参画を、施策の柱に置き、男女が共に社会に参画し、誰もが自分らしく生きるために、その推進が市民の自立につながっていく大変重要な施策であると考える。さらに、当市も男女平等条例の制定に向けて議論していく必要があると考える。

視察等個別部分報告書	作成者氏名	武藤千里

1　視察（研修・視察研修）の実施名称（テーマ）

平成30年度調布市議会文教委員会行政視察
平成30年10月9日～10月11日（3日間）
場所：福岡県八女市、佐賀県武雄市、福岡県久留米市

2　実施結果に対する所感，意見等
（質疑・意見交換した内容，今後の市政に生かすべき点等）

第1日目
10月9日（火）福岡県八女市
「映画制作と観光振興の取り組みについて」
＊調布にて事前に映画を視聴してから視察
①映画製作プロジェクト立ち上げについて
映画製作の中心となった鈴木プロデューサーが八女市に長期在住し、地域との関係を作る取り組みが大きい。
②八女市とＪＡなどで結成された映画「野球部員、演劇の舞台に立つ！」を応援する会と支援する会の活動
製作費の協賛金集め、前売り券販売、宣伝活動など、当初は地域の理解を得ることに苦労したが、最終的には、製作費2,300万円分、チケット12,000万円を達成。その他にボランティア・エキストラ併せて3,000人が協力。
支援する会の平井事務局長が大きな役割を果たした。鈴木プロデューサーとの2人3脚が素晴らしい。
③④観光振興の取り組み、課題や問題点
八女の自然や産業など映画の隅々に、八女の暮らしが息づいている。
とりわけ、八女高校は課外授業として取り組み、3日間全校生徒が参加したとのこと。映画製作に参加することで、真剣に働く製作者の姿を、高校生が見て一緒に参加することで、成長する姿があったとの話は、感銘を受けた。

映画製作を通して、地域住民自身が自らの町の魅力を再発見し、住民同士がつながることが大切と感じた。

2日目

10月10日（水）武雄市

「ＩＣＴを活用した教育の取り組みについて」

①教育分野へのＩＣＴ機器導入の経緯について

情報化社会への対応、21世紀型スキルの整備

平成28年末に電子黒板の100%整備、平成30年度から更新を進めている

②現状の課題や今後の取り組みについて

学校現場での活用状況は70%

③ＩＣＴ整備に係る費用

機器整備費用

平成25年度　無線ＬＡＮ及び校内ネットワーク整備　約7,000万円

全小学校児童１人１台タブレット端末導入　約12,300万円

全中学校生徒分　約9,600万円

ソフトウェア費用

平成26年度　940万円　その後増加傾向　29年度2,178万円

セキュリティ関係費用

合計年間　約1,500万円

ＩＣＴ支援員業務委託費

合計年間　約3,900万円

④具体的な取り組み事例

スマイル学習、花まるタイム（民間学習塾との連携）

学校現場で一番の要望は教員の増員が一番多い。教育内容の改善を図るためにも、教員を増員することで、様々なアイデアが広がるのではないかと思った。ＩＣＴの導入や活用は、そうした取り組みと併せて行うことが望ましいと思う。

今後、実際の取り組み状況を見学する機会を作りたいと思った。

3日目

10月11日（木）久留米市

「男女平等推進センター事業について～ＤＶ被害者支援事業について～」

平成22年　久留米市ＤＶのないまちづくり宣言

①ＤＶ防止対策委員会の設置

課題を整理し、具体的活動に進める

優先的に取り組む重点項目

・ＤＶ発生の防止（教育・啓発）

・ＤＶ被害の潜在化防止

・ＤＶ被害者の被害からの回復・支援

具体的取り組み

・市民に対し男女共同参画講座やＤＶ予防研修を実施

・教育現場などにおける予防教育の充実

・医療関係者に対する研修の強化

・子ども向け電話相談の実施

②ＤＶ被害者の安全確保のためのワンストップサービス、住所情報保護システムなどの適切な運用などに関して

★制度マニュアルができたからと言って取り組みが進むわけではない。重要なのは、1人ひとりの職員が豊かな人権感覚を身につけ、ＤＶ被害者に対応すること。平成24年28年に全職員を対象としたＤＶ研修を実施。その他、同和問題・男女平等に関する研修も必須としている。

センターの相談室などの工夫や、市民活動への支援も充実していた。この視察を通して、ＤＶ問題は、人権問題の根幹だということを学んだ。

調布市でも、ＤＶ問題を矮小化せず全ての市民の人権問題ととらえて、学び、実践につなげることが重要だと感じた。

3　その他（今後の課題・調査研究すべきテーマ等）